

英国における性犯罪者処遇について ～性犯罪者処遇プログラムを中心に～

保護局観察課

本日の発表

- 0 調査の概要
 - 1 英国における性犯罪者対策の概要
 - 2 性犯罪者に対するアセスメント
 - 3 プログラムの概要
 - 4 プログラムの内容
 - 5 プログラムの実施者
 - 6 プログラム終了後の処遇
(参考)医療機関と連携した処遇
 - 7 まとめ
-



0 調査の概要

○2019年12月3日から同月10日にかけて、英国における性犯罪者対策について、処遇プログラムを中心に現地調査を実施

○訪問先

- ・日本大使館(英国司法省職員からヒアリング)
 - ・スタッフォード刑務所
 - ・保護観察所3か所(ミッドランド, サウスウエストサウスセントラル, ロンドン)
 - ・王立ベスレム病院
-

1 英国における性犯罪者対策の概要

①性犯罪者登録制度, 民事命令など法整備による
監視・行動制限

②MAPP(A Multi Agency Public Protection Arrangements)
による多機関連携

③刑務所及び保護観察所における処遇プログラム

2 性犯罪者に対するアセスメント

- ▶ 判決前調査のほか、刑務所入所時や仮釈放前、保護観察期間中にアセスメントを実施する。
- ▶ 主なアセスメントツールは以下の三つ；
 - ① Offender Assessment System (OASys)
性犯罪者以外にも使用。事件内容、生活環境、職業歴、家族やパートナーとの関係、健康状態、認知や感情など、幅広い情報を収集する。
 - ② Active Risk Management System (ARMS)
性犯罪の動的リスクと保護的要因のアセスメントに使用。
 - ③ Risk Matrix 2000 (RM2000)
静的リスクのアセスメントに使用。本ツールにより査定されたリスクレベルにより、受講対象となるプログラムを決定する。

3 プログラムの概要

(1) プログラムの変遷

(従来)

- ・刑務所においては、SOTP(Sex Offender Treatment Programme)を実施
- ・保護観察所においては、C-SOGP(Community-Sex Offender Group Programme)を実施

日本の保護観察所で実施しているプログラムの開発時に参考にしたもの



受講者の再犯率が下がらなかったことなどから、内容を見直し

(現在)

- ・刑務所及び保護観察所において、**新たなプログラムを実施**

3 プログラムの概要

(2) 新たなプログラムの背景理論

○主に用いている技法は認知行動療法

○以下のものに関する研究の進展を踏まえて作成された

- ・RNR (Risk-Need-Responsivity)原則
- ・性犯罪者の犯罪誘発要因
- ・生理-心理-社会モデルによる見立て及び介入
- ・ストレングス基盤のアプローチ
- ・レジスタンスへの理解
- ・プログラムの効果検証

3 プログラムの概要

(3) プログラムの種類

▶ 主要なプログラム

| | | 性犯罪再犯リスク | |
|------|------|---------------------------------|--|
| | | 中～高 | 高 |
| 知的能力 | 標準 | Horizon | Kaizen ※刑務所のみ |
| | 知的障害 | NMS (New Me Strength) | BNM+ ※刑務所のみ (Becoming New Me+) |

▶ その他特性等に応じたプログラム

- ・Living as New Me(LNM): NMSを終えた者対象
- ・iHorizon: 中リスクの、わいせつ画像のダウンロード等をした者(保護観察所のみ)
- ・Healthy Sex Programme(HSP): 上記のプログラム修了者のうち、性的思考をコントロールできない者(刑務所のみ)

※刑務所で受けたプログラムを保護観察所で繰り返し実施することはない

4 プログラム (Horizon) の内容

(1) 概要

- ▶ 対象: 中～高リスクの性犯罪者(成人男性)
- ▶ 性犯罪者用のプログラムの中で最も受講者数が多く, 刑務所, 保護観察所それぞれにおいて, 年間1,000人程度に対して実施されている。
- ▶ 性犯罪の再犯リスクであるとされる要因と, 保護的要因を介入のターゲットとしている。
- ▶ 従来のプログラムとの違い: 本件犯罪そのものを掘り下げない, 被害者への共感を扱わない
⇒ 本件犯罪を否認している者にも適用可能
- ▶ 全34回(グループ31回, 個別3回)
- ▶ 1回のセッションは2時間(途中で20分間休憩)

4 プログラム (Horizon) の内容

(2) 構成

| 課程 | 時間数 |
|--|-------|
| 個別セッション | 1.5～2 |
| 第1課程: グループへの参加(プログラムの説明など) | 2 |
| 第2課程: 前へ進む(自らのリスク要因と保護的要因の理解, 自分史の振り返り, コーピングスキルの紹介) | 8 |
| 個別セッション | 1.5～2 |
| 第3課程: 新しい私の目標 | 2 |
| 第4課程: 成功を支える(セルフコントロール, 肯定的なアイデンティティ) | 4 |
| 第5課程: 新しい私とセックス(セックスに関する健全な考えや行動) | 12 |
| 第6課程: 感情をコントロールする(感情が行動に及ぼす影響) | 10 |
| 第7課程: 問題を解決する(問題解決訓練) | 8 |
| 第8課程: 良い人間関係(自らの人間関係の振り返り, 他者への共感, アサーティブネス) | 10 |
| 第9課程: 出発する(今後のライフスタイル) | 6 |
| 個別セッション | 2 |

4 プログラム (Horizon) の内容

(3) 重要ツール① **Great 8 Tactics**

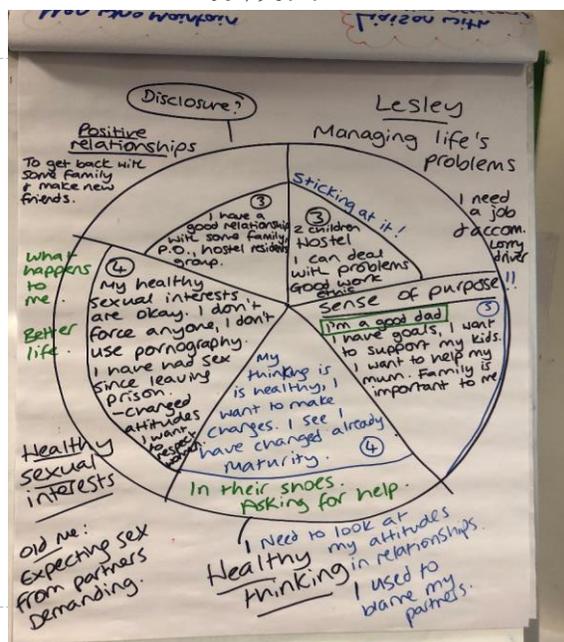
- ▶ この先の人生で使えるコーピング集
 - ①Stop and Think: 行動する前に他の選択を考える。
 - ②What Happens to me: 再犯した場合の結果を考える。
 - ③Better Life: 再犯をしない, 幸せな生活について考える。
 - ④In Their Shoes: 他者の気持ちや考えを想像する。
 - ⑤Praise and Reward: 自分の成長を褒める。
 - ⑥Asking for Help: 必要なときに他者に助けを求める。
 - ⑦Sticking at It: 困難にぶつかったときに粘り強く取り組む。
 - ⑧Here and Now: 今起きていることに対する自分の考え感情に注目して, それを受け入れる。

4 プログラム (Horizon) の内容

(3) 重要ツール② **Success Wheel**

- ▶ Horizonの介入ターゲットとされている5領域(リスク要因四つ, 保護的要因一つ)について視覚的に表現したもの
 - ①Managing life's Problems
ネガティブな感情への対処, 問題解決, 現実的な目標設定とそれに向けた取組
 - ②Positive Relationship
他者との親密で向社会的な関係の形成
 - ③Healthy Thinking
健全な価値観(性犯罪を正当化しない, 女性を尊重する)
 - ④Healthy Sexual interests
性に関する健全な考えや行動, 性的思考のコントロール
 - ⑤Sense of Purpose (保護的要因)
仕事等の生活習慣, 健全な人間関係, 責任感

Success Wheelの作成例



4 プログラム (Horizon) の内容 (3) 重要ツール③

▶ Life Map

出生から現在に至るまでの人生の上がり下がりを書き込んだもの。犯罪歴や性に関する経験を含む、人生における重要な出来事が書き込まれる。対象者はLife Mapを作成することにより、自らを犯罪に繋げていた考え方・感情・行動、逆に犯罪から遠ざけていた考え方等を客観視する。

▶ My Journey Record

受講者に交付されるプログラムの記録。各セッション終了時に受講者がコメントを記載し、一つの課程が終わるごとにファシリテーターのフィードバックが記載される。

5 プログラムの実施者

(1) 実施体制

- ▶ ファシリテーター
プログラムの実施を担当。刑務所や保護観察所の職員が担うが、外部の心理士が入ることもある。
- ▶ Treatment Manager(TM)
管理者であり、対象者の選定やプログラムの実施が適正になされていることを確認する。ファシリテーターのスーパーバイズも行う。
- ▶ Program Manager(PM)
管理運営を担当。TMと兼任することもある。
- ▶ Resettlement Manager(RM)
刑務所に常駐し、ファシリテーター等と対象者の担当保護観察官等との連絡調整を行う。

5 プログラムの実施者

(2) 実施者の育成・ケア

- ▶ ファシリテーターの研修(ファシリテーター未経験者の場合)
 - ・アセスメントセンターで適性を確認
 - ・コアスキルトレーニング:5日間
基本的な面接技法等を学ぶ。
 - ・プログラムの研修:5日間
プログラムの全体像, 根本的概念, プログラム中で用いるコーピング等について実践的に学ぶ。
- ▶ スーパービジョン
セッションは毎回録画され, 10回に1回以上の頻度でスーパーバイザーが観察し, ファシリテーターにフィードバックを行う。
- ▶ 高リスク対象者を扱うファシリテーターへのケア
 - ・年2回以上個別カウンセリング
 - ・プログラム実施に関わる期間: 関わらない期間=3:1

6 プログラム終了後の処遇

- ▶ プログラム全課程終了後のカンファレンス
 - ・プログラム実施者, 対象者本人, 対象者の担当職員 (Offender Manager←保護観察官, 刑務所職員), その他関係者で実施。
 - ・プログラムにより成長できた点や更に強化すべき点について話し合うことで, 今後の介入におけるターゲットを特定し, リスクマネジメントに役立てる。
- ▶ My Journey Record: プログラム実施者から処遇担当者へ
- ▶ New Me Mot
 - ・プログラムを終了した者の処遇に活用するツールキット。
 - ・プログラムで習得した内容を定着させるために, ①セルフマネジメントの継続, ②プログラムで検討した生活計画の確認, ③特別な問題が生じたときに実施するエクササイズ, の要素で構成される。

(参考) 医療機関と連携した処遇 ～OPD pathway～

重篤な人格障害を抱えており, 通常の処遇に馴染まない暴力犯罪者又は性犯罪者については, 刑務所や保護観察所とNational Health Service (国営の保健医療サービス) が協働して特別な処遇を実施している。精神医学, 心理学等の専門家がアセスメントから介入まで関わる。

- ▶ 刑務所内での処遇
 - 指定された刑務所において, 心理学の研修を受けたスタッフが対象者を処遇する。
- ▶ 医療機関での処遇
 - 必要なケースは, 対象者の同意を得て, 一定期間, 指定された医療機関に入院して認知行動療法, スキーマ療法, 薬物療法などを実施する。
- ▶ 保護観察所での処遇 (例: ロンドン保護観察所)
 - 通常とは別のプログラム (認知行動療法ベースだが, アタッチメント理論を取り入れている点と, 本件犯罪に焦点を当てる点が異なる) を中心とした処遇を実施する。NHSの職員も処遇に加わる。

※ただし, 本施策の適用件数は少ない

7 まとめ

- ▶ 現在の英国のプログラムは,
 - ・GLMやデジスタンスの考え方を取り入れて, よりストレングススペース・目標志向的なアプローチへ
 - ・性犯罪の再犯リスク要因とされる要因にターゲットを絞る(被害者への共感を扱わない, など)
 - －我が国でどこまで参考にすべきか?
 - ▶ 認知行動療法がベースであることは変更なし
 - ▶ プログラムの効果を次の処遇に生かす工夫
 - ・プログラム終了後の処遇で活用するツールの存在
 - ・連携と引継ぎ(カンファレンス, 「My Journey Record」)
 - ▶ プログラム実施者の育成体制
-

